

令和元年度（平成30年度対象）
生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和元年8月
生駒市教育委員会

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の 状況に関する点検・評価について

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」が平成28年6月に策定されたことに伴い、本大綱で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げたアクションプランを平成28年8月に策定し、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度アクションプランを見直すこととしています。

そして、本アクションプランを基に、生駒市教育大綱の基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けて、各施策及び事業に取り組んでまいりました。

また、教職員の長時間勤務が社会問題化している中、国においては、「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が策定されるとともに、市町村教育委員会に対して教職員の長時間勤務解消に向けた取組を求めています。

これらを受けて、本市では、生駒市学校教育のあり方検討委員会に教職員の働き方改革の取組に関して諮問し、同委員会から答申を受け、「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を策定し、本プログラムに掲げた取組についても順次進めているところです。

この度、本アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、また新たに時間創造プログラムにおいて示した取組を加え、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき平成30年度の実績を対象に生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、点検・評価を行いましたので、同法第26条の規定により報告します。

令和元年8月26日

生駒市教育委員会

教育長 中 田 好 昭

目 次

令和元年度（平成 30 年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	3
教育委員会の活動状況	4
教育大綱に基づく施策・事業	6
基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり	6
1 保護者支援の場・コミュニティづくり	6
2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実	10
基本方針 2 21 世紀を生き抜く優しくたくましい人づくり	13
1 21 世紀を生き抜く力を身につける学びの創造	13
2 多様性を認める優しい心と、挑戦を続けるたくましい心の育成	18
3 子どもや学校のチャレンジを応援する仕組みづくり	21
4 学びを支える教職員、学校への支援	23
基本方針 3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり .	30
1 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり	30
2 文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現	32
3 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展	37
4 すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保	41
教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムの取組状況	45
点検及び評価に関する意見	47

令和元年度（平成 30 年度対象）活動点検評価報告書の作成にあたって

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成 27 年 4 月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成 28 年度末に改訂され、幼稚園は平成 30 年度、小学校は平成 32 年度、中学校は平成 33 年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施されることとなり、「主体的・対話的で深い学び」や小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。

生駒市では、平成 28 年 6 月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぼう』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度 PDCA サイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。

さらに、教職員の長時間勤務が社会問題化しており、国においては、「学校における働き方改革に関する緊急対策の策定並びに学校における業務改善及び勤務時間管理等に係る取組の徹底について」といった通知を市町村教育委員会に通知するとともに、教職員の長時間勤務の解消に向けた取組を求めるとともに、「公

立学校の教師の勤務時間に関するガイドライン」を策定し、市町村に対しても本ガイドラインを参考に、勤務時間の上限を定めるよう求めています。

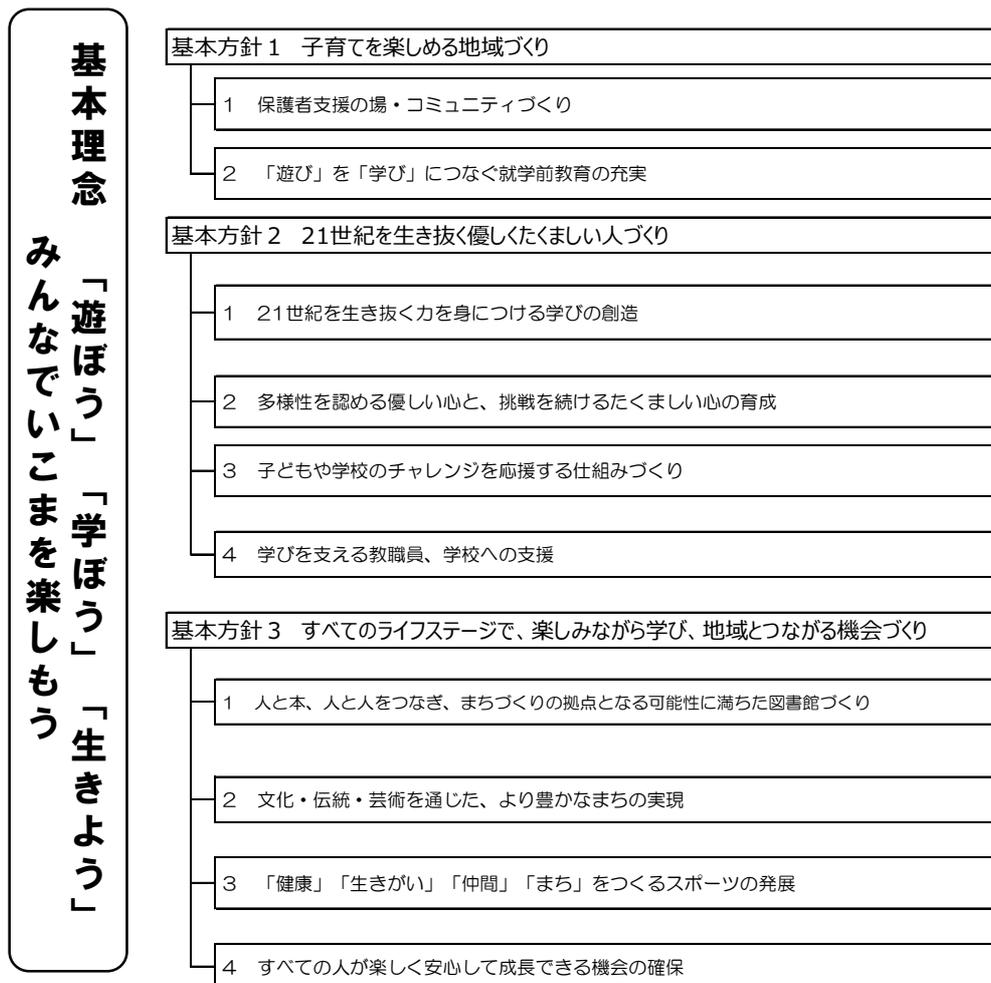
3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

今年度から新たに「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」に掲げた取組を加え、教育委員会が行っている活動を大きく下記の3つに分類し、それらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②生駒市教育大綱に基づく施策・事業



[生駒市教育大綱体系図]

③教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムに基づく取組

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、アクションプランに掲載されていない其他事業や時間創造プログラムに掲載されている取組についても、当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価します。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かしていくこととします。

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
教育委員会会議の開催	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について議決、承認を行う。	【会議開催回数】 定例会：12回 臨時会：5回 【審議件数】 議案：31件 報告案件：25件	A 昨年度同様に、毎月の定例会に加え、必要に応じて臨時会を開催し、規則の制定改廃や教職員の働き方改革に関する取組等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行った。 幼・小・中の卒業（園）式及び運動会に参列する。	年度計画のとおり学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。	A 学校訪問及び行事等への参加を通じて、家庭や地域の実態や学校教育に関する課題を共有することができ、本市の教育の方向性を共に確認し、推進する機会を得ることができた。
その他市教育委員会主催事業等への参加	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	教育委員会主催事業に参加した。 （成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等）	A 教育委員会主催事業等に参加することにより、市行政の全体像を把握し、現状を実感することができた。
教育委員としての資質・能力の向上	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	適宜開催される対象の研修に参加した。 （奈良県市町村教育委員研修会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会、市町村教育委員研究協議会等）	A 参加した研修会等の内容を教育委員同士で報告・共有することで、委員個人だけでなく、教育委員会全体のレベルアップにつなげることができた。
各種教育機関との連携	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	生駒市学校教育のあり方検討委員会から中間答申を受けるなど、附属機関の活用や教育関係団体との連携	A 多種多様な教育課題に附属機関の設置などの確かな対応を行うとともに、教育関係機関との積極的な連携に努めることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	ICT教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	令和2年5月をもって推進期間満了を迎える教育大綱の見直しに向けた協議や、英語教育カリキュラム、保幼小接続カリキュラムの策定による具体的な取組の協議を行った。	A 新学習指導要領を見据えた市独自の英語教育カリキュラムや保幼小接続カリキュラムなど、市の教育の発展を支える取組について、協議を行うことができ、現在、審議中である生駒市学校教育のあり方検討委員会による今後の教育のあり方についても、協議を行うことができた。
教育大綱アクションプランの策定	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCAサイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	教育委員会において、点検評価結果を踏まえた新たな事業の追加や既存事業の見直しを行い、H30年度のアクションプランを策定した。	A アクションプランによって、PDCAサイクルに基づく施策・事業の推進を行うことができ、事業の重点化、実効性の担保などを図る一助となっている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

アクションプランにより、より実効性の高い施策・事業を展開することができるとともに、生駒市学校教育のあり方検討委員会においても、時機を逸することなく、教職員の働き方改革に関する中間答申を受けるなど、今後も将来の市教育行政発展に向けた取組を推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 子育てを楽しめる地域づくり

1 保護者支援の場・コミュニティづくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
子育て広場の充実	幼稚園・保育園で未就園児や保護者が遊び集える場を提供することで、子育ての不安を解消し、子育てを楽しむための取組を行う。	公立幼稚園 6 園：年間12～15回実施 公立保育園 4 園：年間6～24回実施 ・条件整備 ・ホームページやスマートフォンを活用し周知 ・園職員の資質向上や人員配置	幼：参加できる年齢を0歳～就園前までとしてよりきめ細かに対応することができた。 また、保護者同士のつながりの場にもなった。 保：中保育園は工事のため、開催回数は少なくなったが、他園はツイッター等の周知で参加数の増加も見られた。
地域の人材を活用した家庭教育の充実	家庭の教育力の低下や子育ての孤立化を防ぐため、家庭教育支援の充実に向け、地域の力を活用した支援体制を構築し、親子や保護者等を対象にした「学び」や交流の場の提供、地域の居場所づくり事業を実施する。	・平成30年3月「家庭教育支援チームたけのこ」結成 ・事業実施回数：3回 1007人参加 ・地域の多様な人材を発掘、育成し、地域の力を活用した支援体制「家庭教育支援チーム」の設置 ・チームを活用した事業の実施	ワークショップを通じて人材の発掘を行い、目標でもあったチーム化を図ることが出来た。 また、チームを活用し親子や保護者等を対象にした「学び」や交流の場、地域の居場所づくり事業を実施し家庭教育の充実を図ることが出来た。今後も充実した支援を提供していくため、人材の確保と資質向上に努める。
子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進	親子の絆をつくるとともに、同世代のつながりをつくり子育ての孤立を防ぐための事業開催や相談業務を行う。また、子育て層の外出しやすい体制づくりを行う。	・ \wedge アレントトレーニングの1事業を他機関での開催へと移行 ・ひろば事業、 \wedge アレントトレーニングを委託事業として開催場所を他所にも広げて回数を増加	開催は、次年度からとなったが、事業移行により、対象者への的確な周知が可能となるとともに参加者と機関との繋がりができると予想される。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進	親子の絆をつくるとともに、同世代のつながりをつくり子育ての孤立を防ぐための事業開催や相談業務を行う。また、子育て層の外出しやすい体制づくりを行う。	「みっきランド」 利用者数:25,840人 相談件数:2,830件 「はばたきみっき」 利用者数:4,200人 相談件数:666件 ・地域子育て支援拠点「みっきランド」・「はばたきみっき」の利用促進に努め、子育て支援の充実の推進	A 妊娠期から子育て期の切れ目のない支援として妊娠期から拠点を知ってもらう事業を実施し、利用促進を図った。次年度も継続し実施していく。
		【登録数】 ママサポーター:4人 登録者数:235人 ・毎月交流会・説明会を開催 ・子育てシェア体験会を実施(8月に連続3日間で実施) ・定期的な地域交流会を開催しつつ、地元ママサポーターによる子育てシェアの拡大	A 定期的な事業実施により、子育てシェアの認知度が上り、繋がりもでき、登録者数の増加へと繋がっている。
		【登録数】58施設 ・赤ちゃんの駅の拡大/赤ちゃんの駅の登録数:60箇所	B 目標値には達していないが、子育て支援の理解を深めていただけるよう次年度も民間施設へ継続的に働きかけをしていく。
子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進	父親の育児への取組を促すため、子育て支援や様々な行事に関心を持ってもらえるような事業を実施する。	【開催回数】 3期各4回 計12回 参加組数:24組 (対象:第1子と父母) ・パパセミナーの開催回数の増加/パパセミナー開催回数:12回	A 開催回数を1期増やすことにより参加者を増やすことができ、父親の子育てへの関わりの促しができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		H30年度の取組/設定目標		
子育ての孤立化の防止と地域で支え合う子育ての推進	父親の育児への取組を促すため、子育て支援や様々な行事に関心を持ってもらえるような事業を実施する。	【開催回数・参加者数】 ・パパひろば 毎月1回計11回 (1回、台風により中止) 参加者数:160組 ・父親向けトリプルP講座 1期7回 受講者数:6名 ・父親向けトリプルPセミナー 参加者数:13名	・パパひろばの開催 ・父親のためのトリプルP講座の開催	A 参加しやすいようにトリプルPをセミナー形式でも実施するなど、子育ての技術を学びやすくし、育児を楽しく前向きにできるような環境整備を図った。
待機児童解消による保護者支援の環境整備	平成30年度中の待機児童の解消に向け、小規模保育所の新設などに取り組む、子育てしやすい環境を整備する。	30年4月に小規模園「いちぶちどりキッズたにだ」が開園	・駅前空きスペース等を領した小規模保育事業の推進 ・既存民間保育所の増築も検討	B 小規模園の開園により、受け入れ数は増加したが、保育士不足、希望園の集中化により待機児童解消には至っていない。
学童保育の充実	学童保育所の保育環境の改善を図るため、児童一人あたりの有効面積の狭い学童の分割工事を行う。	あすか野、桜ヶ丘、生駒学童保育所の分割を行った。	・一定基準の児童数を超える学童保育の分割	A 工期内に工事が完了し、学童保育所を分割することができた。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
自立支援事業	ひとり親家庭の生活の安定を図るため、経済的支援のほか、自立支援を行う。	自立支援教育訓練給付金事業 1名 高等職業訓練促進費等給付事業訓練促進費 18名 修了支援給付金 8名	—	B 児童扶養手当の現況届等で事業の周知を図ったが、修了支援給付金については昨年度の2名から8名へ増加した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

妊娠期から子育て期にわたり切れ目のない子育て支援事業を進め、保護者が子どもに上手に関わることができるようになり、児童虐待防止にも繋がっていく事業を展開していく。

待機児童解消による保護者支援の環境整備については、待機児童解消に向け小規模保育所などの施設整備と合わせて、保育士確保に取り組む必要がある。

自立支援事業については、修了支援給付金支給者は増加したが、自立支援教育訓練給付金事業は1名であり、更にきめ細かく周知を図る必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

保育士確保のために、潜在保育士向けの相談会を実施したが、より保育現場を知ってもらうためにバスツアーなどを企画する必要がある。また、保育士の給与改善に向けた取組も必要と考える。

<参考データ>

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数（H30.10.1時点）

小学校名	学童名	児童数	小学校名	学童名	児童数
生駒北小	生駒北学童	41	桜ヶ丘小	桜ヶ丘1学童	48
鹿ノ台小	鹿ノ台1学童	60		桜ヶ丘2学童	56
	鹿ノ台2学童	51		桜ヶ丘3学童	50
真弓小	真弓1学童	67	生駒小	生駒1学童	42
	真弓2学童	70		生駒2学童	70
あすか野小	あすか野1学童	64		生駒3学童	44
	あすか野2学童	64	生駒東小	生駒東1学童	58
	あすか野3学童	72		生駒東2学童	59
	あすか野4学童	73	壺分小	壺分1学童	64
生駒台小	生駒台1学童	66		壺分2学童	54
		生駒台2学童	62	生駒南小	生駒南A学童
俵口小	俵口1学童	45	生駒南小	生駒南B学童	45
	俵口2学童	43	生駒南第二小	生駒南第二学童	19
計					1,430

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業	保育所と幼稚園の学びを小学校教育に連続性・一貫性のある教育としてつなぐため、5歳児と小学校1年生や5年生との交流を進める。	<p>管理職向け研修会 1回、職員向け研修会 2回、実践校園による報告会 1回、中央協議会で実践報告リーフレット作成 保幼小接続カリキュラム作成</p> <p>・研修会等の実施 ・成果の拡大</p>	A <p>市分地域での実践研究をもとに、市内の保幼小の交流活動が活発化した。特に私立の保育園・こども園が公立園の仲立ちによって交流に参加することで、園児だけでなく、職員にとっても研修の良い機会となり、資質向上につながる。</p>
学校教育のあり方に関する検討事業	幼稚園のこども園化の実現性の検討や園規模、通園区域の適正化の検討を行う。	<p>学校教育のあり方検討委員会就学前教育・保育部会において、検討の前提となる適切なクラス定員や預かり保育利用時間の拡充について協議した。</p> <p>・検討委員会の設置、諮問 ・検討委員会での検討</p>	B <p>5歳児クラスの定員を現行の35人から「30人程度」とするとともに、預かり保育利用時間の拡充にむけた詳細について検討することとなった。 次年度については、検討結果もふまえ、幼稚園のこども園化の実現性等について検討を行う。</p>
就学前教育・保育のあり方に関する基本方針の策定	多様化する幼児教育に関する方針を策定し、教育環境をソフト、ハードの両面から整備する。	<p>昨年度末の策定を受けて、検討委員会の就学前教育・保育部会でソフト・ハードの両面から教育環境の検討を行った。</p> <p>・環境整備 ・具体的取組（施設改修、教育内容の検討、研修等）の着手</p>	B <p>5歳児クラス定員のあり方や預かり保育利用時間の拡充について検討を行ったが、次年度には今後の幼稚園のあり方について具体的に検討を行う。</p>

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
市立幼稚園 における預 かり保育の 実施	子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。	市内6幼稚園年間のべ 利用者は13,840人 認定こども園生駒幼稚 園、南こども園1号認 定児、早朝・延長預か り保育利用者のべ 769人	—	A こども園での1号 認定児の預かり 利用者が増加し ている。 その他市内幼稚 園6園は、桜ヶ丘 幼稚園の増加を 除いてほぼ横ば いとなっている。
幼稚園就園 奨励費補助 事業	保護者の経済的負担 を軽減するため、私 立幼稚園において就 園奨励費補助金を交 付する。	交付者数 451人 補助金額 43,506,100円	—	A 各私立幼稚園を 通じて案内を行 い、就園費補助 金を交付すること ができた。
生駒幼稚園 こども園移 行事業	子育て環境の充実を 図るため、生駒幼稚 園を幼稚園型認定こ ども園に移行する。	預かり保育利用者数 (1号認定児) 2,074人(延べ)	—	A 7時30分から18時 30分までの預かり 保育を実施し、終 日就労の保護者ニ ーズに対応するこ とができた。
特別支援教 育の充実	4、5歳児クラスに特 別支援介助講師を配 置する。	加配申請児数平成 30年度53名	—	A 特別支援加配を 必要とする園児3 名に対して1名の 加配講師を配置 し、きめ細かい保 育にあたることが できた。
幼稚園・保育 所教員研修 の実施	更なる就学前教育環 境の充実を図るた め、職員の資質向上 につながる研修を実 施する。	新採用職員研修 中堅教員等職員研修 常勤講師研修 幼稚園・保育園交流 学習会年間4回	—	B それぞれ年間計 画に基づいて研 修を進める。研究 内容についてさら に広く情報共有し ていくことで、職 員全体の資質向 上をめざす。
市内私立保 育園施設整 備助成	定員の増等に伴う市 内私立保育所の施設 整備に対する補助を 行う。	いこまこども園の園 舎増築やきたやまと 保育園の新設にお けた補助金の交付を 確実に行った。	—	B 待機児童園児数 の減少にむけて、 一定の役割を果 たすものと考えら れる。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

保育施設の新設などに対応するため補助金を交付することはできたが、依然として保育士不足は深刻な問題であり、引き続き保育士確保につながる保育士の給与改善に係る補助金の充実を図る必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

施設整備に係る補助金を継続しつつ、保育士の給与改善に係る補助金の充実に努める。

<参考データ>

市立幼稚園園児数（H30.5.1時点）

3歳児	4歳児	5歳児	合計
266	357	371	994

市立保育所園児数（H30.5.1時点）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
20	67	112	124	127	126	576

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針 2 21 世紀を生き抜く優しくたくましい人づくり

1 21 世紀を生き抜く力を身につける学びの創造

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30 年度の取組/設定目標	
学校教育のあり方に関する検討事業	新学習指導要領等の確実な実施に向けた学校教育の質の向上、学校・教職員の支援につながる具体的な取組を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境向上部会を6回開催 ・教員を対象としたワークショップを開催 ・「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を作成 	A 教育環境向上部会やワークショップを開催するなどし、「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を作成することができた。
	学校教育の質の向上の観点から、市における小中一貫教育の方向性も踏まえた学校の規模・配置等についての検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会の設置、諮問 ・検討委員会での検討 	
問題発見力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	21 世紀を生き抜く力として、授業において、日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るとともに、必要となる教職員の能力育成のための研修を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の教職員を対象に「主体的・対話的で深い学び」について研修会を実施 ・教職員のファシリテーション能力の育成のための研修開催 ・各校への授業におけるアクティブ・ラーニングの活用を啓発、公開授業の推進 	A 教職員対象に教育委員会主催及び各学校主催の「主体的・対話的で深い学び」についての研修会を実施した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
読書活動・学校図書館の充実	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られているが、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校小中学校に週3日配置 ・学校司書を全小中学校に週3日配置 	<p>A</p> <p>学校司書が本選 びのアドバイスや 絵本の読み聞か せを行うことで、 児童生徒の読書 意欲を向上するこ とができた。</p>
ICT機器を活用した教育の推進	タブレット端末を小中学校と幼稚園、保育所に導入し、授業等で活用することで授業及び保育の質を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT教育推進委員会を2回開催し、ICT機器を活用した授業の実施状況を把握すると共に、各校の活用方法について情報を交換した。 ・大型ディスプレイの活用方法についての研修会を実施 ・奈良高専と連携したプログラミング教育の出前授業を実施 ・プログラミング教育用のキットを小学校に貸出 ・(小中)普通教室に大型ディスプレイ(60インチ)を配備 ・(小中)2年間の調査研究結果をもとに、方針決定 ・(小中)プログラミング教育に関する教員研修の実施 ・ICT機器を活用した授業の研究 ・ICT教育推進委員会の開催 	<p>A</p> <p>・ICT教育推進委員会を開催し、ICT機器を活用した授業の実施状況を把握すると共に、各校の活用方法について情報を交換することができた。</p> <p>・俵口小学校で5,6年生を対象に奈良高専の教員による出前授業を実施することができた。</p> <p>プログラミング教育用のキットを小学校に貸出し、学校におけるプログラミング教育の実施を支援した。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
ICT 機器を 活用した教 育の推進	タブレット端末を小 中学校と幼稚園、保 育所に導入し、授業 等で活用することで 授業及び保育の質を 充実させる。	園児の様子を動画で 撮影し、制作時の説 明や保護者への情報 発信のため使用し た。 ・(幼保)Wi-Fi環境 の整備 ・幼稚園で園児の活 動について、懇談等 で試験活用 ・保育所での活用方 法を検討	B Wi-Fi環境の整 備が進まず、保育 の中での活用範 囲が広がらなかつ た。保育所での 活用方法の検討 にも至らなかつ た。
スマートフ ォン適正利 用推進事業	スマートフォンの利 用にあたっての注意 点や問題点等を周 知・指導し、児童生 徒のスマートフォ ンの適正な利用を促 す。	・「いこまスマホ宣言 2016」を基に、中 学校では、生徒会が 中心となり学校独自 のルールを作成。小 学校では学校がル ールを作成し、児 童、保護者に周知し た。 ・学校での実践	A 中学校では、生徒 会が中心となり学 校独自のルール を作成することが できた。また、小 学校では学校が ルールを作成し、 児童、保護者に周 知し、スマートフ ォンの適正な利用 について指導し た。
グローバ ル時代に対 応した英語 教育の推進	ALTを小学校1・2 年生にも配置し、小 学校すべての学年で 英語活動に取り組む ことにより、英語の 基礎的な力を身につ けるとともに、コミ ュニケーション能力 の育成を図る。	・小学校1・2年生で は生駒市独自の教 材を使用し、年間 10時間程度、小学 校3・4年生で年間 35時間、小学校 5・6年生で年間 50時間英語活動 を実施。 ・年間小学校1・2 年生で10時間程度、 小学校3・4年生で 35時間、小学校 5・6年生で50時 間英語活動を実施 (ALT、わくわくイ ングリッシュサポ ーターを配置)	A ALT、わくわくイ ングリッシュサポ ーターを配置し、 年間に小学校1・ 2年生で10時間 程度、小学校3・ 4年生で35時 間、小学校5・6 年生で50時間 英語活動を実施 することができ た。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
グローバル時代に対応した英語教育の推進	小中学校における英語活動、英語教育の学年目標を策定し、義務教育9年間の体系的な英語教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進委員会を年間10回開催し、生駒市英語教育カリキュラムを作成。 ・ALTコーディネーターを週4日教育指導課に配置 ・英語教育推進委員会の設置 ・小学1・2年生用の教材の配布 ・ALTコーディネーターの配置(週4日) ・義務教育9年間の英語活動、英語教育の指導計画の作成/英語教育推進委員会の開催回数：10回 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育推進委員会を年間10回開催し、生駒市英語教育カリキュラムを作成することができた。 ALTコーディネーターを週4日教育指導課に配置し、学校とALTとの連携やALTの指導力向上を図ることができた。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
問題発見力や他者と協働するコミュニケーション能力の育成	日常の疑問を発見する力やコミュニケーション能力の育成を図るため、教職員のファシリテーション能力育成のための研修開催、授業におけるアクティブ・ラーニングの活用を啓発、公開授業を実施する。	<p>小中学校の教職員を対象に「主体的・対話的で深い学び」について研修会を実施</p> <p style="text-align: center;">-</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員対象に教育委員会主催及び各学校主催の「主体的・対話的で深い学び」についての研修会を実施し、教職員の資質の向上を図った。
小学校1年生30人、小学校2年生35人学級の実施	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年生30人学級及び小学校2年生35人学級を実施する。	<p>全小学校において、1年生30人学級及び2年生35人学級を実施した。</p> <p style="text-align: center;">-</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全ての小学校において達成したが、事業実施に伴う講師の確保が困難であることが今後の課題である。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
伝え合う力 育成事業	豊かな人間性を育む ため、読書活動を推進 し、各校に学校司書を 配置する。	全ての小中学校に週 3日、学校司書を配 置した。	—	A 学校司書が本選 びのアドバイスや 絵本の読み聞か せを行うことで、 児童生徒の読書 意欲を向上するこ とができた。
学校創造推 進事業	保護者や地域住民と の連携のもとで様々 な取組を実施し、信 頼され、開かれた学 校づくりを進める。	地域の方々との交流 の機会を増やすな ど、各校で特色のあ る教育活動を実施 学校創造推進事業の 実施回数：1,517回	—	A 特色のある教育 活動を推進するこ とにより、信頼さ れ、開かれた学校 づくりを進めるこ とができた。
奈良先端科 学技術大学 大学院大学と連 携した授業 の実施	中学校を対象に奈良 先端科学技術大学院 大学の講師等を招 き、授業を行うこと で学ぶことの興味・ 関心を高める。	特別授業を3校、出 前授業を5校で実施	—	A 学校では体験で きかない最先端の 研究に触れること で、そのおもしろ さを十分に体感 できる授業を実 施できた。

【評価による課題】

ICT教育については、ネット環境を整備しながら、学校現場のニーズに応じたパソコン等の端末に配置が必要となる。また、英語教育の推進では「生駒市英語教育のカリキュラム」に則った取組の推進について検証を進めながら、学級担任とALTが連携した授業を推進していくことが大切である。そして、新学習指導要領の実施を踏まえた授業の改善に向け、教員一人一人の授業力の向上が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

ICT教育については、各学校における大型ディスプレイの活用状況を踏まえ、今後の生駒市のICT機器の配置について決定する。「21世紀を生き抜く力を身に付ける学びの創造」に向けた取組として、ALTによる英語活動を充実させ、学校では、授業研究を通して研修を進め、読書活動の推進、心の教育の充実を図り、特色のある教育活動を推進する。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 多様性を認める優しい心と、挑戦を続けるたくましい心の育成

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		H30年度の取組/設定目標		
チャレンジ！やさしくたくましいこまっ子キャンプ	既存の自然体験学習のメニューとして防災キャンプを加え、児童の防災意識を高め、命を守ることの大切さを再認識し、災害発生時に自分の命を守る行動を身につける。	・8校で防災プログラムを実施。	・各小中学校の判断に基づきこまっ子キャンプの実施	A 自然と向き合った防災体験活動を取り入れることで、児童生徒の「生きる力」を育むことができた。
いじめ防止等の施策推進	平成29年3月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止、早期発見につながる取組を推進する。	・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の2回開催 ・「いじめ防止月間」の取組を集約し、市のHPに掲載。	・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の設置・開催 ・小中学校で「いじめ防止基本方針」をもとに、いじめ防止対策の推進	A 平成29年2月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に則り、いじめ防止に向けた環境整備を推進した。
特別支援教育の充実	特別支援学級在籍児童生徒の学習支援、機能回復のための環境及び体制の充実を図る。	小中学校にタブレット端末を配備/タブレット端末の配備累計数：72台	・小学校にタブレット端末を配備/タブレット端末の配備累計数：72台	A 予定どおり目標台数配備できた。しかし、学校調査結果から、必要とする児童生徒の台数は96台であり、今後も引き続き配備する必要がある。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
特別支援教育支援員の配置	介助や指導補助、学習補助等を行う特別支援教育支援員を各校に配置する。	特別支援教育支援員等の各校園への配置率：95%	—	A 各校園に支援員を配置し、きめ細やかな教育支援をすることが可能となった。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーの活用	スクールカウンセラー等を活用し、いじめ問題等の早期解決や教育相談などの体制充実を図る。	中学校で週に1回、小学校で月に1回市費でカウンセラーを配置(県費は中学校に月2回)	—	A 児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行うことを通じて、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図れた。
教育相談の実施	教育相談員やスクールカウンセラーなどの専門家を活用し、教育相談を行える環境を整備する。	5名の相談員とカウンセラー等で教育相談を実施。相談件数は1,157件	—	A 不登校に関する相談が903件と全体の78.0%あり、不登校の初期の段階での適切な対応により、長期欠席の防止に効果を上げている。
特別支援教育に関する教育相談の実施	特別な支援を要する就学前の幼児を対象とした就学前教育相談や特別な支援を要する児童生徒及びその保護者や教員に対して教育相談を行う。	特別支援教育相談員等による相談件数を159件実施	—	A 専門的知識を有する者に相談を受けることができる体制を整備できた。
ことばの教室・通級指導教室エルの運営	読み書きやコミュニケーションなどで困っている幼児や児童を支援するために設置していることばの教室・通級指導教室を運営する。	ことばの教室・通級指導教室エルへの通級者数は150人	—	A 幼児、児童生徒の障がいの重複化や多様化、一人一人の教育的ニーズに応じた教育を実施できた。
適応指導教室の運営	心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒を対象に設置している適応指導教室を運営し、学校生活への復帰を支援する。	心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒に支援を実施	—	A 心理的あるいは情緒的な原因等により登校できない児童生徒に学校生活への復帰支援を実施できた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進める中で、教員が児童生徒の出す信号に対して素早く適切に対応できることが必要となる。また、特別教育支援員を各校に配置しているが、支援を必要とする児童生徒が増加しているために、特別支援教育支援員や学びのサポーターによる学習や活動の支援体制を強化する必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

いじめ防止等に向けた学校づくりを進めるとともに、6月を「いじめ防止月間」とし、取組を強化する。特別支援教育相談、就学前教育相談による個別相談の充実を図り、発達障害等、特別な支援を要する児童生徒に対し特別支援教育支援員や学びのサポーターによる学習や活動の支援を実施し、児童生徒、保護者、指導者に対する支援・相談体制を推進する。特別支援教育に関して、個別の支援計画作成のための研修や特別支援在籍児童生徒の学習支援用タブレットの使用に関する研修を実施し、学校での児童生徒への合理的配慮や支援体制の充実に向けた取組を進める。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 子どもや学校のチャレンジを応援する仕組みづくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		H30年度の取組/設定目標		
生駒こども チャレンジ 補助事業	学校の各種コンテスト等に挑戦するために必要となる経費等を補助する制度を創設し、児童生徒の創造性を培い、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。	生駒中学校のロボコンテストへの参加、生駒北小学校の書道作品展への応募を補助。	・生駒こどもチャレンジ補助事業の実施 ・補助事業の検証	A 児童生徒に、科学や文化的コンテストへの参加を奨励することにより、児童生徒の創造力を培い、達成感を味わわせ、自己肯定感の高まりにつながった。
部活動支援 事業	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部活動を充実させる。	・1校に45日、3校に30日、1校に24日、1校に21日専門的な技術指導力を備えた外部指導者を派遣 ・中学校に外部指導者を配置/指導者配置数：8校		A 専門的な技術指導力を備えた指導者が不在で、学校長が必要と認めた部に対して、外部指導者を派遣できた。
あこがれい こまびと講 演事業	地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方の講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。	・生駒小学校で講演会及び演奏会を実施 ・小中学校で地域出身者の講演会を実施/講演会実施校数：2校		B 社会で活躍している卒業生や地域の方々を講師に招き、講演会を実施できた。

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
「エコキッズいこま」「エコスクール」「エコボーナス」の実施	光熱水費の削減量に応じて次年度の配当額を増額する「エコボーナス」の実施など、環境教育を通じて学校の取組を支援する仕組みを推進する。	全小学校で「エコキッズいこま」を実施	—	A 平成26年3月に生駒市が環境モデル都市に選出されたこととともない、全小中学校で環境教育を推進した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

平成 26 年 3 月に生駒市が環境モデル都市に選出されて依頼、全小中学校で環境教育を推進しているために、各校での取組が一定の成果を上げ続けている。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

部活動への外部指導者の派遣や地域出身者の講演会を実施し、児童生徒が未来への夢を創造できる取組を今後も推進していく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 学びを支える教職員、学校への支援

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
学校教育のあり方に関する検討事業	新学習指導要領等の確実な実施に向けた学校教育の質の向上、学校・教職員の支援につながる具体的な取組を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育環境向上部会を6回開催 ・教員を対象としたワークショップを開催 ・「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を作成 ・検討委員会の設置、諮問 ・検討委員会での検討 	A 教育環境向上部会やワークショップを開催するなどし、「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を作成することができた。
	学校教育の質の向上の観点から、市における小中一貫教育の方向性も踏まえた学校の規模・配置等についての検討を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模適正化部会を5回開催 ・「生駒市における小中一貫教育の方向性」を決定 ・検討委員会の設置、諮問 ・検討委員会での検討(小中一貫教育に関する検証結果を踏まえた市における小中一貫教育についての検討を含む) 	A 学校規模適正化部会開催し、「生駒市における小中一貫教育の方向性」を決定することができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		H30年度の取組/設定目標		
生駒市教育 力活性化プ ロジェクト	教職員研修と指導・ 相談体制の充実によ って、教職員の資質 を向上し、新たな指 導方法等に対応でき る教職員の育成を図 る。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導主事、教育指 導員を学校からの 要請に応じて派遣。 ・ALT コーディネー ターを週 4 日配置 し、ALTと学校との 連携を深めた。 ・教職員を対象に「主 体的・対話的で深い 学び」について研修 会を実施。 ・ICT 教育推進委員 会を 2 回開催。 ・生駒市小学校教育 振興会及び生駒市 中学校教科等研究 会の活動への支援 の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育指導課の指導 体制の充実 ・ALT コーディネー ターの配置（週 4 日） ・学習指導計画等の データベース化 ・教職員のファシリ テーション能力の育 成のための研修開 催 ・ICT 教育推進委員 会の設置 ・教職員の教科研究 支援の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に指導主 事、教育指導 員、ALT コー ディネーターを派 遣することによ り、授業の改善 等、教職員の指 導力の向上を図 ることができた。 ・ICT 教育推進 委員会を開催 し、ICT 機器を 活用した授業の 実施状況を把握 すると共に、今 後の方向性につ いて、情報交換 を実施すること ができた。 ・生駒市小学校 教育振興会、生 駒市中学校教科 等研究会の各部 会で、次期学習 指導要領の実施 に向けた取組に 対して、支援を 実施することが できた。
学校施設老 朽化改善事 業	多くの学校施設は建 設から概ね 40 年程 度経過し、老朽化が 進んでいることから、 計画的に改修を行 うことで、財政負 担を平準化するため、 (仮称)「学校施 設管理計画」を策定 し、計画的に改修す る。	個別施設管理計画の 素案を行った。次年 度の策定に向けてさ らに内容検討を進め る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「市の学校教育のあ り方検討事業」を踏 まえた計画内容の 検討/老朽改修実 施校累計数：2 校 	<ul style="list-style-type: none"> 予定通り検討の 内容を進め、素案 を作成することが できた。 今後、学校教育の あり方検討委員 会における審議を 踏まえ、同計画の 内容変更も含め、 検討を進めてい く。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
生駒北小中 一貫校関連 事業	生駒北小中学校の校舎整備をはじめ、小中連携事業等の実施、検証を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校 9 年間の教育課程を整理し、幾つかの教科で教員が系統性を意識した上で乗り入れ授業を実施 ・学校行事での小中交流によって、児童生徒の幅広い人間関係を育成 ・実施結果の分析・検証 ・検証結果を踏まえた市における小中一貫教育についての検討 	A H28 年度から始まっている小中一貫教育の成果と課題を整理し、「生駒市学校教育のあり方検討委員会」の中で検証等を実施し、「生駒市における小中一貫教育の方向性」を決定した。
小中学校校舎トイレ改修事業	老朽化が顕著である全小学校の校舎トイレ改修を順次行う（便器洋式化、床乾式化）。	H30 年度改修校：生駒小、生駒東小、俵口小 <ul style="list-style-type: none"> ・工事/トイレ改修実施校累計数：11 校 	A H30 年度の工事をもって全小学校のトイレ改修工事を完了した。
	老朽化が顕著である全中学校の校舎のトイレ改修を順次行う（便器洋式化、床乾式化）。	上中学校、光明中学校の改修設計の完了 <ul style="list-style-type: none"> ・設計 	A 予定通り改修に係る設計を完了し、順次改修工事を進めていく。
中学校エアコン整備事業	夏場の教室環境の改善を図るため、中学校の教室にエアコンを整備する。	中学校に加え、小学校のエアコン設計を完了し、翌年 7 月 1 日からの使用開始に向け、工事請負契約を締結した。 <ul style="list-style-type: none"> ・設計 	S 昨年の災害級とも言われる猛暑を受けて、計画を前倒しし、小中学校全ての普通教室と特別教室にエアコンを設置するため、取組を進めることができた。
(仮称)生駒北学校給食センター整備運営事業	(仮称)生駒北学校給食センター整備運営事業者を募集・決定し、基本・実施設計、建設工事を進め、平成 31 年度を目標に小学校の給食を開始する。	<ul style="list-style-type: none"> ・許認可申請等手続を工事着手迄に完了した。 ・建設工事着手：7 月 ・許認可申請等手続 ・建設工事着手 	A 許認可申請等手続、建設工事着手、建設工事の工程について計画通り進めることができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
小中学校屋 内運動場 LED化及び 非構造部材 耐震化事業	避難所となっている 小中学校の屋内運動 場について、照明の LED化及び非構造 部材の耐震改修工 事を行い、防災機能 の強化と省エネルギ ーを推進する。	生駒東小、俵口小、 生駒中、生駒南中、 緑ヶ丘中の屋内運動 場LED化改修工事 の実施	—	A 防災機能の強化 と省エネルギーの推 進のため、引き続 きLED化及び非 構造部材の耐震 化に取り組んで いく。
真弓小学校 体育館改修 工事	老朽化が進んでいる 上中学校体育館を改 修し、指定避難所と しての防災機能及び 教育環境の質の向上 を図るため、屋上防 水改修等の工事を実 施する。	屋内運動場の改修工 事完了	—	A 予定通り工事を 完了した。
学校評議員 会の設置・運 営	地域住民等で構成さ れる学校評議員会を 設置し、地域に根づ いた学校づくりを推 進する。	各校で計画的に開催 し、学校評価につな げることができた。	—	A 全小中学校で学 校評議委員会を 開催し、教育活動 の点検・評価を行 うことができた。
積極的な情 報公開と学 校評価の実 施	学校評価を実施・公表 し、改善点を明確にす るなど、更なる学校経 営の充実を図るとと もに、ホームページで の情報掲載など、積極 的な情報公開による 開かれた学校づくり を推進する。	・3校で1日学校訪 問を実施。 ・学校評価総括表を 活用した学校評価 を全校で実施	—	A 学校評価総括表 を活用した学校 評価を全校で実 施し、ホームペ ージや学校だよりで の情報公開を実 施できた。
安全教育の 推進	交通安全教育の実施 や迅速な不審者情報 の提供など安全教育 を推進する。	子ども安全メールを 23回配信し、情報の 周知を実施	—	A 保護者や地域 の方に携帯電話等 を活用していち早 く不審者情報を 伝えることで、子 どもを見守るた めの意識の向上や 犯罪抑止に努め た。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
食育の推進	給食指導や総合的な学習の時間等と連携した食に関する授業を実施する。	校務分掌に食育推進部を設置し、食育推進計画に沿って取組を進めた。	—	A 学校保健・食育委員会等を開催し、食育の内容で保護者に啓発し、講演会を実施した。
就学援助費の給付・遠距離通学費補助金の給付	児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、就学援助費の給付や遠距離通学費補助金を給付する。	就学援助費：972人、79,914,011円 遠距離通学費補助金：26人、405,600円	—	A 申請に基づき、支給することができた。
隣接校選択制の実施	子どもたちの安全な通学のため、通学に近い隣接した学校を選択できる制度を実施する。	H31 新入学希望者数：49名	—	A 希望者全員を受け入れたが、希望者の急増している学校は余裕教室がなく、今後の受け入れについて、課題も出ている。
院内学級の設置	長期療養中の児童に学習の機会を設け、学力の補充と情緒の安定を図るため、近畿大学奈良病院に設置している院内学級で児童の受入れを行う。	院内学級受入数：4名	—	A 複数児童の入級時期が重なり、引用を工夫して柔軟に受入を行った。また、中学生の入級希望もあることから、次年度から拡充できるよう近大奈良病院と協議した。
地域ぐるみの児童生徒健全育成事業	学校・家庭・地域が連携し、地域の実態や課題に沿った健全育成活動を実施する。	中学校区で地域の実態や課題に沿った話し合いや健全育成活動を実施	—	A 児童生徒の安全や健全育成のため地域の実態に応じた特色ある活動を推進できた。
スクールボランティアプログラム	地域住民がスクールボランティア、市内の大学生が学びのサポーターとして、学校運営に協力し、学校教育の充実をはかる。	スクールボランティアと協力し、学校教育の充実を図った。また、学びのサポーターを年間3,514時間、小中学校に配置	—	A 学びのサポーターを各小中学校へ派遣することにより、学校の取組を支援し学校教育の充実を図った。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
学校給食の 実施、安全 管理・衛生管 理	安心安全な学校給食 の提供のため、安全 管理・衛生管理を実 施する。	異物混入の防止に向 けた取組 —	A 異物混入を防ぐ ため、粘着ローラ ーの使用と鏡や 調理員相互の衣 服のチェックを徹 底した。

【評価による課題】

今後、学校施設の老朽化に伴う大規模改修が増加してくる見込みであることから、計画的に行っていく必要がある。また、学校教育のあり方検討委員会での審議についても、注視し、今後の小中学校のあり方を慎重に見極めていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、ホームページや学校だより等による積極的な情報公開を行い、開かれた学校づくりを進める。学校・家庭・地域が連携し、地域の実態に応じた特色ある教育活動を推進する。

<参考データ>

市立小・中学校 児童生徒数（H30.5.1時点）

小学校名	クラス数	児童数	中学校名	クラス数	児童数
生駒	25	577	生駒	20	574
生駒南	17	425	生駒南	9	183
生駒北	9	164	生駒北	5	103
生駒台	32	871	緑ヶ丘	16	485
生駒東	25	628	鹿ノ台	10	257
真弓	24	623	上	21	621
俵口	21	513	光明	14	400
鹿ノ台	24	615	大瀬	19	590
桜ヶ丘	24	688	合 計	114	3,213
あすか野	36	1,013			
壱分	31	748			
生駒南第二	10	224			
合 計	278	7,089			

【評価基準】
 S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
 A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
 B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
 C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

学校評議員会の開催状況

区分 校園	構成人数			実施回数		
	3名	4名	5名	2回	3回	4回以上
幼稚園	3園	5園	0園	0園	8園	0園
小学校	4校	5校	3校	0校	11校	1校
中学校	7校	0校	0校	2校	3校	2校

学校給食の実施状況

	実施回数	給食費(月額)
小学校	185回	4,150円
中学校	172回	4,550円

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 すべてのライフステージで、楽しみながら学び、地域とつながる機会づくり

1 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
「人を通して本を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル市内中学生大会、全国大会の開催	図書館が本を通じて語り合う場となるとともに、自ら本を選ぶ力や語る力を育み、中学生の読書活動を推進するため、市内中学生大会と地域や年齢の枠を超えた全国大会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「市内中学生大会」予選160人、決勝128人参加 ・「ビブリオバトル全国大会 in いこま」予選210人、決勝378人参加 ・ビブリオバトル市内中学生大会の開催 ・ビブリオバトル全国大会 in いこまの開催/大会参加者数(市内中学生大会170人、全国大会380人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「市内中学生大会」では7校参加。残る1校でも校内でビブリオバトルを実施された。 ・「ビブリオバトル全国大会」では、講師に作家の万城目学氏を招聘。
市民との連携や協創のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造する「まちづくりのプラットフォーム」となる図書館を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 「本棚のWA」3回、「お茶会@北分館×茶釜のふるさと」5回、「みなみの図書館“未在亭”」3回、「まちかど図書室」6団体 ・市民との連携や協創のもと、新規事業の開始/新規事業累計数：3事業 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から本のある地域の居場所「まちかど図書館」事業を開始。 ・市民グループとの協創事業として若者の「本活部@Lib×ライブ」のイベントを2回開催。

【その他事業】

事業・取組名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
図書館の運営と充実	図書サービスや利便性の向上を図り、誰もが利用しやすい図書館運営を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 市民1人あたりの貸出冊数10.7冊 市民1人あたりの貸出冊数12.0冊 	<ul style="list-style-type: none"> 10月から貸出冊数を5冊から12冊へ増やした結果、H28年度の10.2冊H29年度の10.0冊を上回った。
子ども読書活動の充実	子どもの健やかな成長の糧となるよう、ブックスタート事業など子どもの読書活動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「おはなし会」5,884人、「絵本の会」3,439人参加。そのほか、ブックスタート、ブックトーク、児童の行事を各館で開催。 — 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館内での開催のほか、学校、幼稚園、保育園、サークル等への出前を行い、多くの子どもたちに本を届ける活動を行なった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
読書活動ボランティアの育成と協働による事業推進	読書活動ボランティアを育成するとともに、同ボランティアと協働し、読書に触れる環境を整備する。	音訳ボランティアを養成し「耳で楽しむ本の会」「出前耳で楽しむ本の会」を合わせて19回331人、宅配サービス433回。	A 音訳ボランティアは24人、宅配サービスボランティアは64人登録。市民と協働し、多くの人に本に親しんでもらう機会を作った。
		-	

【評価による課題】

「生駒市子ども読書活動推進計画」でも家庭、学校、地域の連携が重要とされているが、現段階ではそれぞれの立場での活動は活発であるが、情報を共有する場や話し合いの場があまり無いため、連携強化に向けた取組が必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

令和元年度に開催予定の子ども読書活動推進に関するワークショップで課題を抽出し今後の活動内容を考えたり具体的な目標を設定する。また、図書館で託児をすることによって来館保護者に本を読める時間を提供する図書館託児事業「こあら」の実施に向けて、令和元年度はボランティア養成を行なう。

<参考データ>

図書館蔵書冊数等

	蔵書冊数	貸出冊数	貸出人数	利用券登録者数
平成28年度	642,018	1,226,912	438,878	60,972
平成29年度	648,088	1,202,428	427,904	58,835
平成30年度	644,138	1,285,801	422,029	55,510

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
生駒市茶道体験事業	市の文化を知る機会として、全国に誇る茶筌を使った茶道を出前授業のメニューの一つとするとともに、茶筌や茶道に触れる機会をさらに充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・市内各小学校(6年生対象 1,397人)で実施 ・新たに全小学校一律での茶道体験事業の実施 	A 高山茶筌を使った茶道体験を通じて子どもたちに市の伝統文化に親しむ機会を提供することができた。
デジタルミュージアムのシステム変更	市の歴史・文化に触れる機会を増やし、郷土愛の醸成に資するため、誰もがスマートフォンなどで簡単にアクセスできる環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・H30.4.1の新システムへの更新、市HPトップページへのバナー掲載 ・広報いこまちに12回連載した「生駒むかしばなし」をデジタルミュージアムにも掲載 ・デジタルミュージアムのさらなる周知 ・掲載情報のタイムリーな更新とメンテナンス ・資料の閲覧可否のための仕分け作業 	A 新システムに移行後の年間アクセス数(訪問者数)は11,085件、これまで約2,300件程度であったことから、多くの市民に利用され本市の歴史、文化に親しむ機会の提供として大きな成果となった。
一緒に見て、一緒に考える愛とつながりの創出	市民自らが企画、運営し、青少年、子育て世代やシニア世代など幅広い世代に新たな出会いや地域のコミュニティ、絆を育むため、「愛にあふれる市民おすすめ映画上映会」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・検証の結果、事業終了を決定 ・上映会実施による効果の検証 ・検証結果を踏まえた事業継続の是非の決定 	A 事業効果の検証の結果、市民同士の繋がりやコミュニティの形成の機会に一定の効果が見られたものの、事業の終了を決定した。
市民と行政が協創した音楽のまち生駒の創出	市民自らが企画・提案し、市民が音楽を身近に親しみ、地域の音楽活動を更に広げるために、「市民みんなで創る音楽祭」を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 市民みんなで創る音楽祭の開催(11団体 11事業・参加者5,150人) ・市民みんなで創る音楽祭の開催/参加者:4,500人 	A 17団体 18公演の応募の中から11団体を採択。新しい団体も参加し、目標を大きく上回る集客を得ることができ、多くの市民が音楽に親しむ機会を提供することができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
市民と行政が協創した音楽のまち生駒の創出	吹奏楽を通じて、若者、子育て世代、シニアなどあらゆる世代が楽しめる市民吹奏楽団を設立する。また、楽団の活動成果として、地域に還元し、音楽の楽しさを発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民吹奏楽団定期演奏会(台風のため中止) ・0才から楽しめるファミリーコンサートの開催 ・第2回いこま吹奏楽の日への参加 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・市民吹奏楽団の運営、事業開催(実施事業) ・市民吹奏楽団コンサート ・市内小中学校、高等学校と吹奏楽団との合同コンサート ・0才から楽しめるコンサート ・市主催事業における演奏 ・その他諸施設への訪問演奏 	<p>A</p> <p>市民吹奏楽団定期演奏会(天候不良による中止)、0才から楽しめるファミリーコンサート(11月25日)、第2回いこま吹奏楽の日(平成31年3月10日)の各事業を開催するほか、市主催事業にも多数出演するなど、「音楽のまち生駒」として地域における音楽文化の発展に貢献できた。</p>

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
生涯学習施設の設備の充実	生涯学習施設の設備を充実させ、市民サービスの向上を図る。	<p>たけまるホール空調設備改修工事や南コミュニティセンター及びたけまるホール屋上防水改修工事等を実施した。また備品の購入等も行い、生涯学習施設の設備の充実に努めた。</p> <p style="text-align: center;">-</p>	<p>A</p> <p>施設の安心・安全の確保や更なる市民サービス向上のため、施設・設備の改修工事や備品の更新等を計画的に実施する。</p>
生涯学習施設の管理運営	市民の生涯学習の拠点となる生涯学習施設を適切に管理運営し、生涯学習の活性化につなげる。	<p>生涯学習施設の利用者数：1,095,748人</p> <p>生涯学習施設の利用者数：1,075,000人</p>	<p>A</p> <p>前年度の利用者数より減少したものの、目標数は上回った。引き続き利用者増に繋がる施設の管理運営に努める。</p>

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
生駒ふるさとミュージアム管理運営	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(累計):53,434人	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(累計):43,000人	A 季節にあった企画展や講演会等の実施に加え、ナイトミュージアムを開催するなど、魅力あるイベントを開催し、目標を上回る来館者を得た。また、市民の意見を収集し事業への協力者の人材発掘のためのワークショップ(全3回)を実施した。
文化芸術事業	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	生涯学習施設で行う文化芸術事業の満足度:97.1	生涯学習施設で行う文化芸術事業の満足度:98.5	B 昨年に引き続き成果発表の場の提供等にも取り組んだが、指定管理者の自主事業の満足度が目標値まで上がらなかった。
生駒歴史文化友の会会員の増加	市民の方に、生駒市の歴史文化に親しみや関心を持ち、文化財愛護の精神や郷土愛を深めてもらうために組織した主の会の会員の増員を目指す。	会員数(子ども会員を含む):65人(うち子ども会員6人)	会員数:100人以上	B 周知不足もあり会員数は目標には達しなかったが、前年度と比較して微増した。今後イベント等でPRしていく。
文化財保護と歴史文化の普及	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	歴史文化系講座聴講者数:954人	歴史文化系講座聴講者数:540人	A 市の文化財を活用した講座を開催するなど、今後も幅広い世代を対象に生駒の歴史を学び郷土愛の醸成につながる事業を指定管理者と連携し実施する。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【評価による課題】

それぞれの事業においては成果をおさめているものの、市民が継続的に本市の歴史文化に興味や関心、親しみを持ってもらえるような事業展開やPR、働きかけが必要である。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

引き続き市民が主役となって成果を披露する場づくりなど文化芸術事業に取り組むとともに、昨年度実施したワークショップ「心によりそうミュージアム」で出された意見やアイデアをもとに、生駒ふるさとミュージアムを中心として多くの市民が本市の歴史文化に興味や関心、親しみをもち続けられるような事業展開や仕組みづくりに取り組んでいく。

<参考データ>

生涯学習施設の利用者数

	平成 30 年度		平成 29 年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	12,267 件	227,871 人	12,078 件	246,004 人
やまびこホール	72 件	775 人	105 件	2,439 人
鹿ノ台ふれあいホール	3,303 件	52,685 人	3,449 件	54,543 人
生駒市図書会館	4,227 件	106,257 人	4,448 件	114,431 人
生駒市コミュニティセンター	8,408 件	173,174 人	8,372 件	182,636 人
南コミュニティセンターせせらぎ	8,426 件	176,824 人	8,702 件	184,687 人
北コミュニティセンターISTA はばたき	12,556 件	253,911 人	12,076 件	237,015 人
芸術会館美楽来	5,088 件	104,251 人	5,226 件	118,018 人
合 計	54,347 件	1,095,748 人	54,456 件	1,139,773 人

生駒ふるさとミュージアム来館者数

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数
平成 28 年度	7,847 人	3,034 人	10,881 人	351 件 7,705 人
平成 29 年度	7,257 人	2,894 人	10,151 人	319 件 6,297 人
平成 30 年度	6,215 人	3,084 人	9,299 人	352 件 6,525 人

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

文化芸術事業の開催状況

	種 別	平成 30 年度		平成 29 年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	12 回	15,022 人	19 回	22,539 人
文化芸術団体補助事業	コンサート等	5 回	3,144 人	5 回	4,130 人
指定管理者自主事業	コンサート等	37 回	20,512 人	37 回	14,370 人
	講 座	392 回	12,121 人	298 回	8,831 人
合 計		447 回	52,222 人	228 回	49,870 人

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」をつくるスポーツの発展

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
総合型地域スポーツクラブの推進・支援	市民のスポーツ活動を推進するため、総合型地域スポーツクラブの活動内容等の周知啓発を行うとともに、クラブ運営に関する助言や施設利用、広報等における支援を行い、会員数の増加及び安定したクラブ運営となるよう活動をサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報掲載、チラシ配布等による周知啓発活動の支援。 ・「生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議」の開催(2回)。 ・会員数:752人 ・各クラブに対する活動支援 ・新規クラブ設立に向けた協力、支援/会員数:750人 	A 各種イベントや学校等を通じたチラシの配布により、少しずつではあるが会員数が増加している。また、「生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議」を開催し、意見交換を行ったことで、各クラブの事業展開に寄与した。
障がい者スポーツ活動の推進	障がい者が障がいの種類や程度に応じて、地域においてスポーツ活動を行うことができるような事業を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者(児)を対象としたイベントの実施〔温水プール開放イベント(2回)、体育館開放イベント(1回)〕 ・障がい者スポーツ用品の購入及び活用(レール平均台、わなげ等) ・事業の実施/開催回数:3回 	A 障がい者(児)対象の体育施設開放イベントを実施した。また、購入した障がい者用スポーツ用品をイベントで使用するとともに、障がい者団体等にも貸し出したことにより、障がい者のスポーツ活動推進のきっかけとなった。
トップアスリート連携事業	メダリストやトップアスリートなどを招き、スポーツ教室や講演会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックメダリストによるレスリング教室、プロ野球奈良県人会による野球教室、ジュニアカート体験会等、計5回の事業を実施した。 ・事業の実施/開催回数:4回 	A 普段は、直接指導を受けることができないトップアスリートとのふれあいを通して、スポーツに憧れや夢を抱けるような機会を提供することができた。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
健康ウォー キング等の 推進	生駒山スカイウォークやチャリロゲイこまなど、誰もが気軽に参加でき、スポーツを始めるきっかけとなるイベントを開催する。	生駒山スカイウォーク：中止 チャリロゲイこま：111人	生駒山スカイウォーク：1,200人 チャリロゲイこま：150人	B 生駒山スカイウォークについては、会場である生駒信貴スカイラインの一部が、平成29年10月の台風の影響で通行止めとなっていたため中止となった。 また、チャリロゲイこまについては、事業エントリーサイトの変更や、悪天候等の理由による当日欠席等もあり、目標に及ばなかった。
子ども体力 向上事業の 実施	子どもの体力向上を目指すため、子どもを対象としたスポーツイベントを開催する。	子どもを対象としたイベント・事業の参加者数：2,466人	子どもを対象としたイベント・事業の参加者数：2,300人	A 体育館無料開放事業や小学生水泳競技大会。小学生長距離走記録会等を通じて、子どもの体力向上を図るとともに、スポーツを始めるきっかけづくりとすることができた。
スポーツ、レ クリエーシ ョン活動	様々なニーズに合ったイベント、講座等を開催し、誰もがスポーツに触れることができる環境を整備する。	市内各種スポーツイベントなどの参加者数：23,028人	市内各種スポーツイベントなどの参加者数：20,000人以上	A 総合型地域スポーツクラブや体育施設指定管理者、市内高等学校と連携して、だれもが気軽に参加できるスポーツイベントを開催し、スポーツ施策の充実を図ることができた。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
社会体育施設の管理運営	市民のスポーツ活動の拠点となる社会体育施設を適切に管理運営し、スポーツ環境の整備を図る。	市内体育施設の利用者数：982,194人	-	B 目標人数には達しなかったが、指定管理者と連携し適切な管理運営を努めることにより、市民サービスの向上と施設の安全な使用に努めた。
		市内体育施設の利用者数：1,000,000人		
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	審議会を通じて専門家や市民から市のスポーツ施策に関する意見を聴くとともに、地域住民であるスポーツ推進委員と協働してスポーツの普及を図る。	スポーツ推進審議会開催回数：2回 スポーツ推進委員会会議：2回 研修会等：7回 実技指導：10回 その他地域での実技指導等	-	A スポーツ推進審議会での協議、スポーツ推進委員の実技指導等の活動により、更なるスポーツの推進が図れた。
		-		

【評価による課題】

総合型地域スポーツクラブは、新しい公共として生駒市の地域スポーツを支えていただく必要があることから、安定運営のための会員数確保に向け更なる支援が必要である。また、市内の各種のスポーツイベントは、体育施設指定管理者の自主事業や総合型地域スポーツクラブの事業などによって増えており、市民がスポーツを行う環境は着実に広がっている。今後は、子どもから高齢者、障がい者などの多様なニーズに対応できるスポーツ環境の更なる充実と拡大が求められる。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

H28年度に「生駒市スポーツ推進計画」が策定されたことに伴い、基本目標及び各取組項目に示された施策・事業を着実に進めていく。特に、アクションプラン掲載事業として掲げた障がい者スポーツ活動の推進、並びに総合型地域スポーツクラブの活動支援、子どもたちがスポーツに憧れや夢を抱けるようトップアスリートとの連携については積極的に推進する。

<参考データ>

スポーツ、レクリエーション活動の実績 (人)

事業名	H30	H29	事業名	H30	H29
体育大会	5,498	5,754	体育館無料開放	1,362	1,501
体育祭	2,050	2,196	学校体育施設開放	2,918	2,914
ファミリースポーツの集い	270	262	生駒ふれあい市民マラソン	411	480
小学生長距離走記録会	189	195	生駒山スカイウォーク	中止	1,200
スポーツ教室	5,387	5,599	チャリロゲいこま	111	156

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

社会体育施設の利用実績

(人)

施設名	H30	H29	施設名	H30	H29
生駒北スポーツセンター	129,586	107,272	滝寺公園	210,891	219,718
イモ山公園	53,875	57,096	むかいやま公園	51,711	57,637
北大和	105,653	103,258	小平尾南	56,354	54,904
総合公園	133,784	147,341	井出山	218,419	221,829
山麓テニス	21,921	25,942	合計	982,194	994,997

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

4 すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保

【アクションプラン掲載事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材発掘、活用	生涯学習の成果が地域社会に還元される機会として、さまざまな専門分野の知識や技能を持った市民や地域で活動するボランティア、NPO等が「先生」となって子どもから大人を対象に、学びたいことを気軽に学べる「街の学校」として、「IKOMA サマーセミナー」を開催する。	<p>「IKOMA サマーセミナー2018」(平成30年7月29日)/講座数:82講座を予定するも、天候不良のため中止 ⇒「今度こそ!?IKOMA サマーセミナー2018」を同年12月8日に開催(講座数37講座)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生」となる人材の募集、カリキュラムの構成 ・市民主体の実行委員会方式による「IKOMA サマーセミナー」の開催/講座数:80講座 	A 雨天中止となったものの82講座と昨年を大きく上回る「先生」が集まり、新たに参加する人も増え、地域の人材発掘においては、大きな成果があった。
困難を抱える子ども・若者への支援	子ども・若者が自立した社会生活を営むことができるように、各関係機関・団体との情報交換や個別のケース検討などを行う「子ども若者支援ネットワーク」を設置し、総合相談窓口を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・生駒市子ども・若者支援ネットワークの運営を行うとともに、「生駒市子ども・若者総合相談窓口(ユースネットいこま)」を運営し、相談支援を行っている。 ・相談人数 95人 進路決定者数 8人 ・子ども・若者支援ネットワークの運営 ・不登校やニート、ひきこもり等に対する総合相談窓口の運営 ・訪問事業実施/相談人数:100人、進路決定者数:30人 	B 「ユースネットいこま」設立初年度という点で、相談業務及び窓口の周知を重点的に行ない相談件数等の実績を大きく上げた一方、支援に向けたネットワークとの連携した取組を充分に行なうことが出来なかった。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		H30年度の取組/設定目標	
高齢者の力のまちづくりへの活用	高齢者の学習意欲を引き出し、まちづくりに貢献できるような人材を育成していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・寿大学の実務講習会を35講座から36講座に拡充 ・寿大学連絡協議会設立準備委員会を設立し、8回の会議を経て、平成31年2月末に、寿大学の現役の学生・卒業生等が中心となり、「寿生駒連絡協議会(愛称:気らくネット)」を発足させた。 ・寿大学ワークショップでの提案等をもとに、寿大学学生による具体的な社会貢献の実践に向けた検討 	<p>調整会議等で寿大学の学生との意見交換の場を有効活用し、学習意欲を高める学習課程の充実に努めた。</p> <p>A 今後も引き続き見直しを継続し、社会貢献、まちづくりに繋がる人材育成に努める。また卒業後も気らくネットやOB会への加入へ繋げていく。</p>
多様性を認め合い、他者や地域に頼ることのできる場・環境の創出	「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催など、障がいの有無や国籍、性別などの個々人の違いや多様性を理解し、認め合うことのできる機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催/参加人数100名 ・「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催/参加者数:100人 	<p>A 昨年度から規模を拡大したが目標を上回る参加希望があり、関心の高さがうかがえた。</p> <p>今後は、本イベントの参加で得た経験を日常生活や地域社会などで生かしてもらえるように取り組む。</p>

【その他事業】

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果	評価
		設定目標	
自主学習グループの学習成果の社会還元促進	市民向け学習会や施設への慰問を通して、自主学習の成果を社会還元活動につなげてもらう。	<ul style="list-style-type: none"> 市民向け公開講座(福祉施設への慰問を含む)426回 市民向け公開講座(福祉施設への慰問を含む):480回 	<p>B 自主学習グループの会員の高齢化が進み活動が縮小傾向にあるグループも増えてきたが、地道に活動を続けるグループも多い。</p>

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業・取組 名称	活動内容	実績・成果		評価
		設定目標		
生涯学習ま ちづくり人 材バンクの 活用	生涯学習に関する専門的な知識や経験、技能等を有している人に生涯学習まちづくり人材バンクに登録してもらい、積極的に活用する。	生涯学習まちづくり 人材バンク活用件 数：491件	A	チラシ等の配布やHP等を通じて市民の情報を提供し、活用促進に努めた。
		生涯学習まちづくり 人材バンク活用件 数：430件		
青少年健全 育成の啓発 及び非行防 止活動の実 施	青少年指導委員の活動や啓発活動等を通じて、青少年の健全育成、非行防止活動を実施する。	青少年健全育成事業 参加人数：5,191人	A	各種団体と協働で事業を行った結果、参加者数や内容ともに充実した事業ができた。
		青少年健全育成事業 参加人数：3,770人		
家庭教育学 級の開設	市内幼稚園を対象に家庭教育学級を開設し、保護者に対して子育てに関する情報提供を行う。	8学級開設 開催回数 24回 参加人数 667人	A	保護者に対する子育ての学習機会の提供という役割を果たしてきたが、学級運営が困難になっていることも踏まえ、今後は新たに設立した「生駒市家庭教育支援チーム（愛称：たけのこ）」による事業へ移行し家庭教育支援の取組を進めていく。

【評価による課題】

さまざまな場であらゆる年齢層の市民に生涯学習の機会を提供してきたが、市民自身が学習した成果を生かしてまちづくりの場で活躍する機会をさらに広げていく必要がある。

【評価・課題を踏まえた今後の活動方針】

市内小・中学校教室に空調設備が導入されたことや、スクール・サポート事業のモデル実施を好機として、「気らくネット」や「たけのこ」といった市民主体のグループが学校の場でそれぞれの特性を生かした活動を進めることにより、「学習の成果をまちづくりにつなげる仕組みづくり」や「地域と学校の連携」をさらに進化させていく。

【評価基準】
S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

いこま寿大学の在籍者数等

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
H29	14	806	193	281	193	203
H30	14	753	228	281	246	196

家庭教育学級に関する開催状況等

	学級数	延べ開催数	延べ参加人数
H28	9学級	46回	1,224人
H29	9学級	40回	953人
H30	8学級	24回	667人

教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムの取組状況

取組方針1 マンパワーを充実します

具体的取組名			実施時期	取組状況
(1)	専門スタッフの配置	拡充	2019	—
(2)	部活動支援員の拡充	拡充	2019	—
(3)	小学校英語専科教員の配置	新規	2018	俵口小学校、生駒台小学校を兼務する英語専科教員を配置
(4)	サポートスタッフの配置	新規	2020	—
(5)	学校支援ボランティア、地域人材の活用	拡充	2019	—

取組方針2 時間を意識した働き方を徹底します

具体的取組名			実施時期	取組状況
(1)	学校閉庁日の設定	新規	2019	—
(2)	留守番電話の設置	新規	2019	—
(3)	部活動休養日及び部活動時間の徹底	新規	2018	週2日の部活動休養日及び平日2時間、土日・休日・長期休業日3時間の部活動時間の徹底
(4)	ICTによる勤務時間の把握	新規	2018	グループウェアの活用による教員の出退勤時刻の把握
(5)	管理職マネジメント研修の充実と意識改革	新規	2019	—
(6)	① 最終退勤時刻の設定および徹底	新規	2019	—
	② 定時退勤日の設定および徹底	新規	2019	—

取組方針 3 事務処理を効率化します

具体的取組名		実施時期	取組状況	
(1)	統合型校務支援システムの導入	新規	2019	—
(2)	ICT を活用した教材の共有化	継続	2017	グループウェアのフォルダや掲示板を活用し、情報共有を実施
(3)	ICT を活用した情報の共有化	新規	2018	グループウェアのフォルダや掲示板を活用し、情報共有を実施
(4)	給食費の徴収業務の移行	新規	2020	—
(5)	事務機能の強化	新規	2019	—
(6)	諸調査の精査及び削減	新規	2019	—
(7)	各種事務の精査及び削減	新規	2019	—

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

平成30年度は、教育行政の基本理念となる「生駒市教育大綱」が策定されて3年目にあたる。本市教育大綱は4年をひとくくりとし、毎年「アクションプラン」を策定・更新することで教育理念の具現化を図ってきた。

アクションプランの策定にあたっては、市長マニフェストと連動するとともに「PDCAサイクル」が効果的に活かされており、発展的かつ一貫性をもった取組が進められ、成果につながっている。

今日、教育現場は一つの転換期を迎えており多様な課題が山積している。本市では、教育委員会を中心に総合教育会議・推進委員会・検討委員会など、様々な機関と連携し検討を進める中で、積極的な改革が進んでいる。

就学前教育・小中一貫教育・英語教育・ICT教育に積極的に取り組むとともに、また働き方改革では「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を策定し、教職員の長時間勤務解消にも順次取り組まれている。多くの重要かつ難しい課題が存在するが、長期的展望に立って先進的な改革が進められていることを高く評価したい。

また、すべてのライフステージで、楽しみながら地域とつながる機会づくりにおいても、多くの事業を展開し評価できる成果につながっている。

以下アクションプラン掲載事業を中心にポイントを絞って私見を述べることにする。

(2) 生駒市教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針1 子育てを楽しむ地域づくり（子育て・就学前教育）

1 保護者支援の場・コミュニケーションづくり

全国的に核家族化が進む中、本市も例外ではない。新規事業の「子育て広場の充実」「地域人材を活用した家庭教育支援」のサービスを充実するため、ホームページやスマートフォンを活用し周知を行った。その結果、参加数の増加につながっており時代のニーズに即した取組と評価したい。

子育て層の外出しやすい体制作りとして「赤ちゃん駅」の拡大に積極的に取り組んでいるが、更に支援の理解を民間施設に働き掛け、目標値達成に努めていただきたい。

「待機児童による保護者支援の環境整備」は昨年度に引き続きB評価である。しかし、小規模園の開園にともない、受け入れ数が増加したのは評価できる。希望園の集中化や保育士不足、環境整備など残された課題解消に向けた取組をお願いしたい。また、自立支援事業に対しても更なる周知ときめ細やかな取組を期待する。

2 「遊び」を「学び」につなぐ就学前教育の充実

新規事業として「幼児期の教育と小学校教育の育ちをつなぐ幼小接続事業」を立ち上げ、連続性・一貫性のある教育の実践研究をもとに研修会などを実施し、成果につながっていることは評価できる。

学校教育のあり方検討委員会で適切なクラス定員や預かり保育時間の拡充についても検討が行われている。今後更に進展することを望む。

多様化する働く保護者のニーズにこたえ、幼児教育環境をソフト面・ハード面の両面から整備が続けられている。担当課の横の連携を大切に更なる取組を期待する。また、深刻な問題である保育士不足を解消できるように待遇面からの改善

もお願いしたい。

幼児教育の特別支援事業では、園児3名に対し1名の加配講師を配置し、きめ細かく保育にあたることが出来るようになった。該当園児はもちろん、保護者や園にとって大きな支援につながっていると評価したい。

「幼稚園・保育園教員研修の実施」「市内私立保育園施設整備助成」についてはB評価である。就学前教育環境の整備と充実を図るため、待機児童の解消に向けた努力とともに、今後も積極的な取組をお願いしたい。

基本方針2 21世紀を生き抜く優しくたくましい人づくり(学校教育)

1 21世紀を生き抜く力を身につける学びの創造

令和2年度より小学校で新学習指導要領に基づく教育課程が実施され、「主体的・対話的で深い学び」や「外国語科の導入」等大きく変わろうとしている。

「教職員のファシリテーション能力育成のための研修」や「授業におけるアクティブ・ラーニング活用を啓発・公開授業の推進」「ICT教育の推進」等、現場の教職員の対応能力が求められる。研修はもちろん教職員一人ひとりの努力も更に必要となる。それらに伴い多様な専門性をもった適切な人材の配置が大きな支援となる。

予算措置は必至であるが、「現場の受け入れ態勢」も必要である。行政と学校現場が互いに力を合わせ、機器導入や人的支援が子どもたちの健全な育成に効果を発揮できるよう行政支援していただきたい。

2 多様性を認め優しい心と、挑戦を続けるたくましい心の育成

いじめ根絶に向け、すべての組織が自らの課題と捉え主体的に取り組むことが大切である。学校においては教職員が児童生徒の出す細かな信号を見逃すことなく認知し、それを共有し素早く対応することで重大事象防止につながる。

本年度から新たに加えられた「教職員がいきいきと子どもに向き合う時間創造プログラム」の実施により教職員の子供と向き合う時間が増え、きめ細かな指導が進められるよう大いに期待する。

各校園に「スクールカウンセラー」「スクールソーシャルワーカー」「スクールアドバイザー」等が派遣され、「カウンセリング」や「教育相談」の充実が図られている。また、教育支援施設として「教育相談室」「適応指導教室」、他郡市に先駆けた「言葉の教室・通級指導エル」等も多くの成果を上げており高く評価できる。引き続き更なる充実に向けた取組をお願いしたい。

3 子どもや学校のチャレンジを応援する仕組みづくり

生駒こどもチャレンジ補助事業として様々な事業が行われていることを評価する。

学校現場では、ニーズの多様化、部活の指導者不足が切実な課題となっているが、外部指導者の派遣等、教育現場への適切な人材の派遣を更に期待する。

「あこがれいこまびと講演事業」はB評価であるが、地域出身者の人材発掘に更に努力していただき、郷土愛を持ち、児童生徒が未来への夢を創造できるよう事業の継続と発展をお願いしたい。

4 学びを支える教職員、学校への支援

新学習指導要領の実施にともない「学校教育の質の向上」「学校・教職員の支援につながる具体的な取組」を検討する委員会を設置し「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」が策定された。今後、現場の実態に即した具体的な取組が進められるよう期待する。

近年の猛暑を受け、計画を前倒しし、小中学校全ての普通教室と特別教室にエアコンを設置するため取組が進められた。本年度から評価基準が4段階になった

中で、S評価されているように高い評価に値する。今後も学校施設の老朽化に伴う大規模改修も増加してくると思われるが、臨機応変に対応していただけるようお願いしたい。

その他「生駒市の小中一貫校の方向性の決定」や、「学校評議員制度」「学校評価」の実施及び積極的な情報公開、「スクールボランティアとの協力」「地域ぐるみの児童生徒健全育成事業」等々、地域の実態に応じ特色ある教育活動がなされていることを高く評価し、今後も期待したい。

基本方針3 すべてのライフステージで、たのしみながら学び、地域とつながる機会づくり（生涯学習）

1 人と本、人と人をつなぎ、まちづくりの拠点となる可能性に満ちた図書館づくり

生駒市には5か所の市立図書館が存在するが、それぞれ本を通じて人と人のふれあいを深める大切な役割を担っている。各図書館では単なる本の貸し出し事業でなく、様々の工夫や企画を取り入れまちづくりの拠点となる図書館づくりが進められている。

「ビブリオバトル」「本棚のWA」「お茶会@北分館」「みなみの図書館未在亭」「まちかど図書室」「本活部 Lib×ライブ」、児童向け事業として「おはなし会」「絵本の会」「ブックスタート」「ブックトーク」、校園向け出前活動など充実した取組がみられる。また、障がい者・高齢者向けに「耳で楽しむ本の会」その出前事業など全ての人にやさしい図書館づくりが進められている。

市民との連携や「協創」を大切にし、市民が気軽に集える「ふれあいの拠点」として図書館づくりが進められていることを高く評価したい。

「図書館の運営と充実」の項目が、貸出目標をクリアできずB評価になっているが、貸出数にあまり固執することなく、幅広い視点に立った図書館運営を今

後も進めていただきたい。そして、一層質の高い図書館運営を目指し、「評価・課題を踏まえた今後の活動方針」で示されている家庭・学校・地域の連携を進めていただきたい。また、事業運営に欠かせないボランティアの養成にも努力願いたい。

2 文化・伝統・芸術を通じた、より豊かなまちの実現

デジタル化など社会が大きく変化を遂げる中、地域に根付いた伝統文化や芸術・伝統産業などに目を向ける事は意義深いものがある。十分な理解と認識をもって、維持・継承・発展させていくことが大切である。地域の歴史や文化に深く触れる事は「郷土愛の醸成」にもつながり、また今後生駒市が「成熟した文化都市」として発展し、より豊かなまちづくりを進めていくうえで大きな力になるものとする。工夫をこらし多様な事業展開を望みたい。

全国に誇る高山茶釜を使った「生駒市茶道体験事業」は、子どもたちが市の伝統文化に親しむよい機会となった。日頃味わえない様々な直接体験は、子どもたちの成長の糧として幅広い人間形成に大きな役目を果たすことになる。

また、デジタルミュージアムの新システム導入は、時代の流れを踏まえた改革で、アクセス数が劇的に増加するなど大きな成果につながっている。

生駒市では市民と行政が「協創」し、「音楽のまち生駒」を創出してきた。もともと行政主導で始まった事業であるが、現在は委託事業として市民主導で事業展開されている。参加団体・事業日数・集客数も大幅に増え、市民が音楽に親しめる機会も年間を通じて企画されている。市民主導の運営も定着し「音楽のまち生駒」にふさわしい「音楽文化」の根づきが見られ高く評価したい。

生駒ふるさとミュージアムは、指定管理者と連携し魅力あるイベントを企画することにより、来館者数が目標を上回る成果につながっている。また、市内小中学校の郷土学習や歴史学習の場としても貴重な存在となっている。

「文化芸術事業」「生駒歴史文化友の会員増加」はともにB評価であるが、成果が現れるまで時間のかかる事業内容でもある。地道な取組を積み上げる中で成果につなげていただきたい。また、周知不足が一つの課題とも考えられる。事業内容と合わせて一層の工夫をお願いしたい。

3 「健康」「生きがい」「仲間」「まち」を作るスポーツの発展

文化・芸術と同じように地域のソフトインフラの一つとしてスポーツが社会的な価値と役割を担う時代となった。

生駒市では古くから様々な形でスポーツ推進事業に取り組んでおり、市民体育大会や市民体育祭・ファミリースポーツの集い・生駒山スカイウォークなど、誰もが参加できる市民のスポーツイベントとして定着してきている。地道な取組と継続の成果と評価したい。そして、平成28年度には「生駒市スポーツ推進計画」を策定し、アクションプランでは、より進化した具体的な事業として「総合型地域スポーツクラブの推進・支援」「障がい者スポーツの推進」「トップアスリート連携事業」が示されている。

総合型地域スポーツクラブは「多種目・多世代」で「いつでも・どこでも・誰でも」スポーツができる環境づくりとして推進されてきた。

これからの市民スポーツの在り方として大きな柱になると考えられる。現在生駒市では3クラブが登録されて活動を続けている。新規クラブがもっと増え、活動の輪が広がることを期待したい。評価では、広報掲載・チラシの配布・市総合型クラブ連携会議の開催等をもってA評価であるが、現実としてクラブの認知度はまだ低いのではないかとと思われる。周知・啓発方法の工夫や新規クラブ設立支援の在り方などについてもさらに検討いただき、積極的支援をお願いしたい。また、クラブの増加に伴う体育施設などの環境整備もお願いしたい。

障がい者スポーツ活動の推進については、体育館やプールの無料開放イベント

などを企画し、障害の種類や程度に応じてスポーツに気軽に参加できるような事業が企画されている。より多くの人に参加し、積極的にスポーツに親しむきっかけになってほしいと思う。また、健常者とのスポーツを通じた交流ができる企画も工夫していただきたい。

「トップアスリート連携事業」におけるアスリートの講演やスポーツ教室の開催は、子どもたちに憧れや夢を抱かせる良い機会として評価するとともに、今後も工夫した企画を続けていただきたい。

4 すべての人が楽しく安心して成長できる機会の確保

本年度が2回目の開催となる「IKOMAサマーセミナー」は、子どもから大人まで、幅広い世代が学びたいことを気軽に学べる「街の学校」であり、様々な専門性を持った市民や地域ボランティア、NPOが先生となって開催される。市民主体の実行委員会方式で企画・運営され、平成30年度は前年度の57講座を大幅に上回って82講座が予定された。雨天中止により延期され、37講座の実績に終わったが、今後、成熟した生涯学習を支える新しい講座の形式として大きな可能性を持っている。幅広い世代に学ぶ機会の提供と地域人材活用の進化事業として高い評価をするとともに更なる進化を期待したい。

困難を抱える子ども・若者支援事業として「子ども若者支援ネットワーク」を立ち上げ、「生駒市子ども若者総合相談窓口」の設置は、ニート・引きこもりなど若者の自立支援を目指す市の強い姿勢の表れである。高い評価はもちろん、立ち直りを目指す本人や家族の力強い支援になるものと期待する。

高齢者社会において高齢者の学習意欲を引き出し、まちづくりに貢献できるような人材を育成していくことは有意義かつ有効な取組である。また寿大学の学生・OBを中心とする「寿生駒連絡協議会」の立ち上げも心強く大きな意味を持つ。豊かな経験や技能を社会で活かそうとする意欲的な高齢者の人材発掘に更に力を

入れていただきたい。

「ユニバーサルキャンプ in いこま」の開催では規模の拡大にもかかわらず、更に上回る参加希望があり、関心の高さがあらわれている。障害の有無や国籍、性別など個々の違いや多様性を認め合う機会を提供する事業として今後も継続し、市民に広く広げていただきたい。

(3) 教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラムに基づく取組に対する意見

教職員の長時間勤務が社会問題化している中、国による「公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドライン」が策定された。本市では、「生駒市学校教育のあり方検討委員会」に教職員の働き方改革に関する諮問を行うとともに、答申を受け、「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」を策定した。

現状の改善が急務で重要なのは、教職員の学校滞在時間の長さとともに、事務業務や部活動、保護者対応といった部分の仕事量が多く、休養不足はもちろん、教材研究や学習指導などが思うように進まない実態が浮かび上がって来ているからであろう。そして、重要なのは、自己研修、指導の充実が児童・生徒の成長、学習能力向上にも深く関わっているという点である。

行事の見直しや削減、精選も必要となってくるであろう。教育に関わる関係機関との連携も大切にし、何をどう削るかは慎重に検討を重ねていただきたい。勿論、教師の意識改革も必要となるが、机上の空論にならないよう現状を見据え、教育環境整備が進むことを期待している。

改革の実現が、社会を支え、未来を担う子どもたちのためであるとの視点を忘れず、同時にその改革には保護者や周囲の理解協力が不可欠であることも認識しておきたい。

教育の場での働き方改革は一般的な働き方改革とは異なる点も多くあり、困難な点もあるだろうが、一步踏み出しスタートしたことを評価し、「教職員がいきいきと子どもと向き合う時間創造プログラム」の取組方針に上げられている3点、1. マンパワーの充実 2. 時間を意識した働き方の徹底 3. 事務処理の効率化に大いに期待したい。

令和元年8月14日

生駒市教育委員会活動点検評価委員 樋口 幸雄

生駒市教育委員会活動点検評価委員 岡島 洋子

